

# 静岡市病院事業会計



# 病院事業会計

## 第1 業務の執行状況

### 1 患者数等の状況

(1) 患者数等の状況は、次のとおりである。なお、患者数は延べ人数による。

(単位 人・比率 %)

予定患者数	実績患者数	差引患者数	実績率
290,855	283,334	△7,521	97.4

(単位 人・比率 %)

区分		令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
患者数	入院	112,272	103,724	8,548	8.2
	外来	171,062	164,432	6,630	4.0
	合計	283,334	268,156	15,178	5.7
病床利用率		66.4	61.4	5.0	—

(注) 病床利用率 =  $\frac{\text{入院患者数}}{\text{年間延病床数} [\text{病床数} \times \text{診療日数}]} \times 100$

各年度の年間延病床数〔病床数、診療日数〕は下表のとおりであった。

	年間延病床数	年度末病床数	診療日数
令和2年度	168,995床	463床	365日
令和3年度	168,995床	463床	365日

入院患者数は延べ112,272人で、前年度に比べ8,548人(8.2%)増加し、外来患者数は延べ171,062人で、前年度に比べ6,630人(4.0%)増加していた。

入院患者数では主に、神経内科で4,809人減少していたものの、循環器内科で4,472人、呼吸器内科で2,259人、整形外科で2,236人、リハビリテーション科で1,856人増加していた。

また、外来患者数では主に、産婦人科で780人減少していたものの、整形外科で1,516人、内科で1,319人、循環器内科で1,291人増加していた。

(2) 医師等職員数の状況は、次のとおりである。

(単位 人)

区 分	令和3年度末	令和2年度末	比較増減
医 師	69	66	3
看 護 師	384	366	18
医療技術職員	130	130	0
事 務 職 員	36	36	0
そ の 他 職 員	17	16	1
計	636	614	22

(注1) 医師は、正規医師及び後期研修医である。

(注2) 看護師は、看護師、助産師及び准看護師である。

(注3) 医療技術職員は、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床工学技士、視能訓練士、栄養士等である。

(3) 1日平均患者数、医師及び看護師1人1日当たり患者数は、次のとおりである。

(単位 人)

区 分		令和3年度	令和2年度	比較増減
1 日 平 均 患 者 数	入院	307.6	284.2	23.4
	外来	706.9	676.7	30.2
医師1人1日当たり患者数	入院	6.6	6.4	0.2
	外来	10.1	10.1	0.0
看護師1人1日当たり患者数	入院	1.2	1.1	0.1
	外来	1.8	1.8	0.0

(注) 診療日数並びに医師及び看護師の実質延職員数により算出

## 2 主要な建設改良事業の執行状況

### (1) 工事

工事請負費の執行はなかった。

### (2) 備品の購入状況

血管造影撮影装置（頭頸部・腹部用）ほか49件を2億7,831万円で購入していた。

## 第2 予算の執行状況

### 1 収益的収支の状況

(1) 収益的収入の執行状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

科 目	予算額	決算額	執行率	前年度決算額	比較増減	増減率
病院事業収益	12,634,951	13,297,082	105.2	12,144,085	1,152,996	9.5
医業収益	9,845,053	9,374,252	95.2	8,608,128	766,124	8.9
医業外収益	2,789,898	3,922,829	140.6	3,425,107	497,722	14.5
特別利益	—	—	—	110,849	△110,849	△100.0

上表の医業収益のうち、入院・外来収益の状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区 分	令和3年度		令和2年度		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
入院収益	6,190,664	73.5	5,505,674	71.8	684,990	12.4
外来収益	2,236,521	26.5	2,157,185	28.2	79,336	3.7
計	8,427,185	100.0	7,662,859	100.0	764,326	10.0

(2) 収益的支出の執行状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

科 目	予算額	決算額	執行率	前年度決算額	比較増減	増減率
病院事業費用	12,634,951	12,574,260	99.5	12,192,920	381,340	3.1
医業費用	12,171,574	12,129,910	99.7	11,701,192	428,717	3.7
医業外費用	462,377	444,349	96.1	352,193	92,156	26.2
特別損失	—	—	—	139,534	△139,534	△100.0
予備費	1,000	—	—	—	—	—

## 2 資本的収支の状況

(1) 資本的収入の執行状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

科 目	予算額	決算額	執行率	前年度決算額	比較増減	増減率
資本的収入	669,940	426,649	63.7	305,201	121,447	39.8
企業債	486,600	210,400	43.2	150,500	59,900	39.8
出資金	55,150	51,375	93.2	53,625	△2,250	△4.2
国庫支出金	—	14,928	—	5,130	9,797	191.0
県支出金	—	20,477	—	65,854	△45,377	△68.9
寄附金	1,000	1,000	100.0	2,000	△1,000	△50.0
貸付金返還金	10,570	17,770	168.1	28,084	△10,314	△36.7
基金繰入金	116,371	110,691	95.1	—	110,691	—
基金運用収入	249	7	3.1	7	0	2.7

ア 資本的収入は4億2,664万円で、予算額に対する執行率は63.7%となっていた。これは主に、企業債を事業費に合わせて減じたためである。

イ 資本的収入は、前年度に比べ1億2,144万円(39.8%)増加していた。これは主に、企業債が前年度に比べて増加したことや静岡市立清水病院医療研究奨励鈴与基金の取崩しによる繰入れ等をしたためである。

(2) 資本的支出の執行状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

科 目	予算額	決算額	執行率	翌年度繰越額	前年度決算額	比較増減	増減率
資本的支出	1,523,800	1,199,943	78.7	—	1,120,964	78,978	7.0
建設改良費	647,516	418,568	64.6	—	377,445	41,122	10.9
貸付金	106,750	92,075	86.3	—	96,775	△4,700	△4.9
企業債償還金	642,726	573,850	89.3	—	644,736	△70,885	△11.0
基金積立金	13,908	8,228	59.2	—	2,007	6,221	309.9
その他資本的支出	112,900	107,220	95.0	—	—	107,220	—

ア 資本的支出は11億9,994万円で、予算額に対する執行率は78.7%となっていた。これは主に、建設改良費の執行率が低かったためである。

イ 資本的支出は、前年度に比べ7,897万円(7.0%)増加していた。

ウ 建設改良費は4億1,856万円で、前年度に比べ4,112万円(10.9%)増加していた。

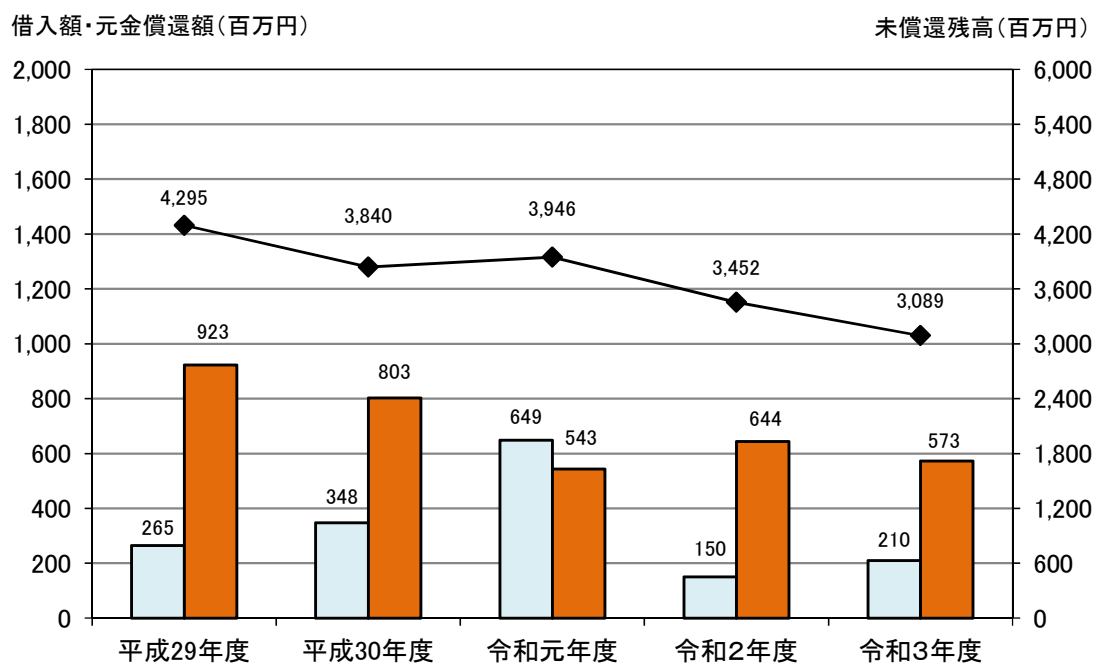
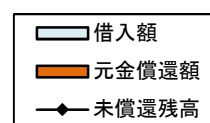
エ 企業債償還金は5億7,385万円で、前年度に比べ7,088万円(11.0%)減少していた。

なお、最近5か年の借入額、償還額及び未償還残高の推移は、次のとおりである。

(単位 千円)

年 度	借入額	償 還 額			未償還残高
		元 金	利 子	計	
平成29	265,000	923,410	73,456	996,867	4,295,679
平成30	348,000	803,119	52,425	855,544	3,840,559
令和元	649,400	543,134	39,308	582,443	3,946,825
令和2	150,500	644,736	36,652	681,389	3,452,588
令和3	210,400	573,850	33,589	607,440	3,089,137

### 最近5か年の推移



(3) 資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額7億7,329万円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額84万円、過年度分損益勘定留保資金7億7,244万円で補填していた。

### 3 その他の予算の執行状況

(1) 債務負担行為に係る契約状況は、次のとおりである。

(単位 千円)

事 項	債務負担 行為限度額	契約金額	左の支払区分		
			令和 3年度 支払額	令和4年度以降 支払予定額	
				期間 (年度)	金額
輸液ポンプ設置事業経費 (収益的支出分)	13,419	14,124	706	4～8	13,417
輸液ポンプ設置事業経費 (資本的支出分)	36,390	38,301	1,915	4～8	36,386
シリンジポンプ設置事業経費 (収益的支出分)	6,712	7,062	353	4～8	6,708
シリンジポンプ設置事業経費 (資本的支出分)	13,766	14,487	724	4～8	13,762
医療機器保守経費 (令和3年度購入分)	34,650	34,650	0	4～9	34,650

債務負担行為に係る契約は、予算に定めた事項、期間及び限度額の範囲内で締結されていた。

(2) 企業債の本年度分の借入同意額は2億1,040万円で、予算に定めた限度額4億8,660万円の範囲内で執行されていた。

また、起債の目的、方法、利率及び償還の方法も予算に沿って執行されていた。

(3) 予算に定めた一時借入金の限度額は10億円であったが、一時借入金はなかった。

(4) 予算に定めた予定支出の各項の経費の金額の流用及び議会の議決を経なければ流用することのできない経費（職員給与費、交際費）についての流用はなかった。

(5) 予算に定めた病院事業費に充てるための他会計からの補助金は、予算額16億720万円に対し、決算額16億720万円となっていた。

(6) 棚卸資産の購入額は11億4,198万円で、予算に定めた棚卸資産の購入限度額13億7,000万円の範囲内で執行されていた。



### 第3 経営状況

1 経営成績は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区 分		令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
総 収 益		13,267,231	12,114,087	1,153,143	9.5
内 訳	経 常 収 益	13,267,231	12,003,238	1,263,993	10.5
	医 業 収 益	9,348,792	8,582,767	766,024	8.9
	医 業 外 収 益	3,918,439	3,420,470	497,968	14.6
	特 別 利 益	—	110,849	△110,849	△100.0
	(うち一般会計補助金)	(1,607,200)	(2,153,038)	(△545,838)	(△25.4)
総 費 用		12,553,263	12,166,758	386,505	3.2
内 訳	経 常 費 用	12,553,263	12,027,223	526,039	4.4
	医 業 費 用	11,835,445	11,427,429	408,016	3.6
	医 業 外 費 用	717,817	599,794	118,023	19.7
	特 別 損 失	—	139,534	△139,534	△100.0
経常損益(経常収益－経常費用)		713,968	△23,985	737,954	—
(一般会計補助金を除いたもの)		(△893,231)	(△2,177,023)	(1,283,792)	(△59.0)
純損益(総収益－総費用)		713,968	△52,670	766,638	—
(一般会計補助金を除いたもの)		(△893,231)	(△2,205,708)	(1,312,476)	(△59.5)

(1) 本年度の病院事業は、総収益が132億6,723万円、総費用が125億5,326万円で、その結果、当年度純損益は7億1,396万円の純利益となり、前年度に比べ利益が7億6,663万円増加していた。

また、病院事業費に充てるための一般会計補助金を除いた実質損益は、8億9,323万円の純損失で、前年度に比べ損失が13億1,247万円(59.5%)減少していた。

ア 医業収益は93億4,879万円で、前年度に比べ7億6,602万円(8.9%)増加していた。

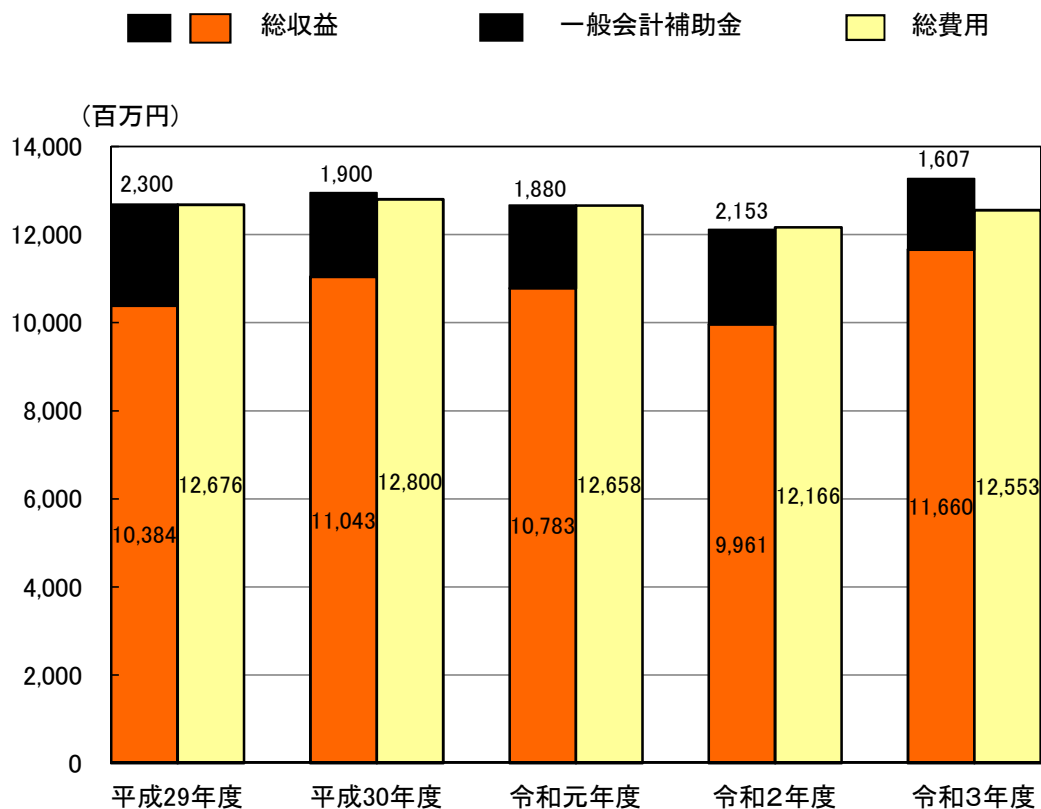
イ 医業外収益は39億1,843万円で、前年度に比べ4億9,796万円(14.6%)増加していた。これは主に、新型コロナウイルス感染症対策事業などに係る県補助金が前年度に比べ10億7,440万円増加したためである。

ウ 医業費用は118億3,544万円で、前年度に比べ4億801万円(3.6%)増加していた。

エ 医業外費用は7億1,781万円で、前年度に比べ1億1,802万円(19.7%)増加していた。こ

れは主に、新規リースに伴う控除対象外消費税の増などにより雑損失が前年度に比べ1億2,131万円増加したためである。

(2) 最近5か年の経営成績の推移は、次のとおりである。



(3) 収益率の推移は、次のとおりである。

(単位 %)

区分	令和3年度	令和2年度	令和元年度	算式
総収支比率	105.7	99.6	100.0	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$
経常収支比率	105.7	99.8	100.0	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$
医業収支比率	79.0	75.1	79.9	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$

ア 総収益と総費用との関連を示す総収支比率は105.7%で、前年度を6.1ポイント上回っていた。

イ 経常的な収益と費用との関連を示す経常収支比率は105.7%で、前年度を5.9ポイント上回っていた。

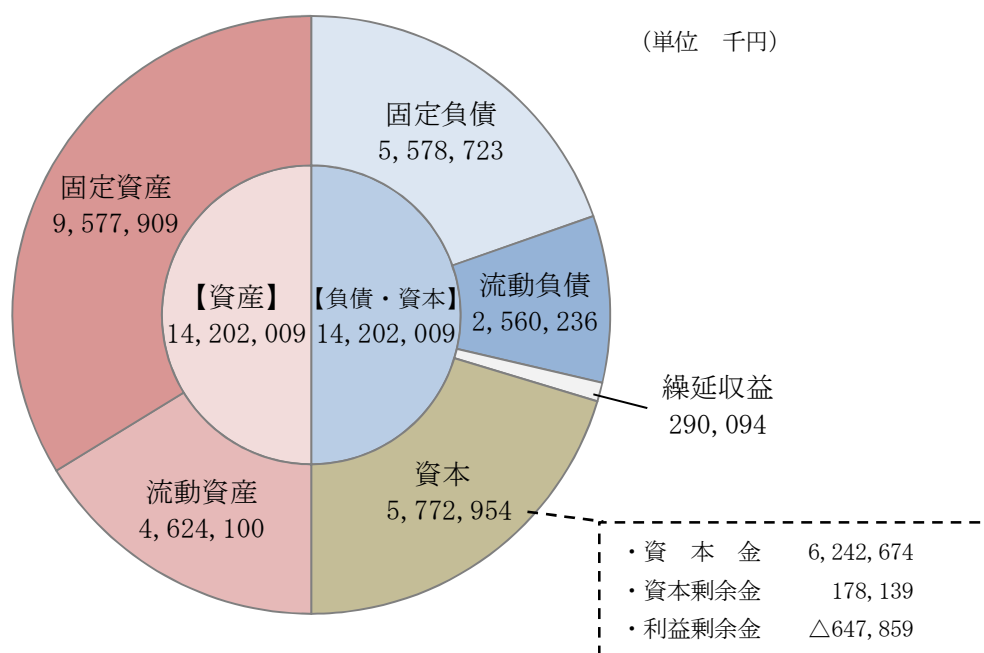
ウ 医業活動の能率を示す医業収支比率は79.0%で、前年度を3.9ポイント上回っていた。

2 財政状態を示す貸借対照表は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

科 目	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
資 産	14,202,009	11,612,424	2,589,585	22.3
固定資産	9,577,909	8,427,439	1,150,470	13.7
有形固定資産	9,120,825	7,868,747	1,252,078	15.9
無形固定資産	483	483	0	0.0
投資その他の資産	456,600	558,208	△101,608	△18.2
流動資産	4,624,100	3,184,984	1,439,115	45.2
現金預金	1,099,437	562,997	536,439	95.3
未収金	3,363,506	2,566,560	796,946	31.1
貯蔵品	46,190	48,460	△2,269	△4.7
前払費用	5,283	4,505	778	17.3
その他流動資産	109,682	2,461	107,220	—
負債及び資本	14,202,009	11,612,424	2,589,585	22.3
負 債	8,429,055	6,605,821	1,823,234	27.6
固定負債	5,578,723	4,386,974	1,191,749	27.2
企業債	2,543,929	2,878,737	△334,808	△11.6
リース債務	1,398,450	15,513	1,382,937	—
引当金	1,636,343	1,492,724	143,619	9.6
流動負債	2,560,236	1,942,513	617,723	31.8
企業債	545,208	573,850	△28,642	△5.0
リース債務	388,433	47,025	341,407	726.0
未払金	1,125,208	814,739	310,468	38.1
引当金	447,539	452,490	△4,951	△1.1
その他流動負債	53,847	54,407	△559	△1.0
繰延収益	290,094	276,333	13,761	5.0
資 本	5,772,954	5,006,603	766,351	15.3
資本金	6,242,674	6,191,299	51,375	0.8
剰余金	△469,720	△1,184,696	714,976	△60.4
資本剰余金	178,139	177,131	1,007	0.6
利益剰余金	△647,859	△1,361,828	713,968	△52.4

(注) 貸借対照表の欠損金は、利益剰余金の負数として表記した。



(1) 資 産

資産は142億200万円で、前年度に比べ25億8,958万円（22.3%）増加していた。

ア 固定資産は95億7,790万円で、前年度に比べ11億5,047万円（13.7%）増加していた。これは主に、リース資産が16億9,509万円増加したためである。

イ 流動資産は46億2,410万円で、前年度に比べ14億3,911万円（45.2%）増加していた。これは主に、医業外未収金が6億9,830万円、預金が5億3,636万円増加したためである。

ウ 貸倒引当金控除前の実質未収金（決算時点で納期限が経過している債権）は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
未 収 金 A	3,458,988	2,673,604	785,383	29.4
うち納期未到来分 B	3,293,097	2,520,039	773,057	30.7
保険請求分	1,422,031	1,276,627	145,404	11.4
負担金・補助金等	1,871,065	1,243,412	627,653	50.5
実質未収金 A-B	165,890	153,564	12,326	8.0
現年度分	72,885	50,275	22,609	45.0
過年度分	93,005	103,289	△10,283	△10.0

(ア) 未収金は34億5,898万円で、前年度に比べ7億8,538万円（29.4%）増加していた。

未収金のうち、納期未到来分の32億9,309万円を除いた実質未収金は1億6,589万円で、前年度に比べ1,232万円（8.0%）増加していた。

(イ) 不納欠損処分状況は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
入 院 収 益	5,648	1,680	3,967	236.1
外 来 収 益	483	246	236	95.7
その他医業収益	2	27	△25	△92.1
その他医業外収益	—	—	—	—
合 計	6,133	1,955	4,178	213.7

不納欠損処分の金額は合計で613万円となっており、前年度に比べ417万円（213.7%）増加していた。これは主に、債権放棄による不納欠損処分金額が増加したことによるものである。

## (2) 負債及び資本

ア 負債は84億2,905万円で、前年度に比べ18億2,323万円（27.6%）増加していた。

（ア）固定負債は55億7,872万円で、前年度に比べ11億9,174万円（27.2%）増加していた。これは主に、リース債務が13億8,293万円増加したためである。

（イ）流動負債は25億6,023万円で、前年度に比べ6億1,772万円（31.8%）増加していた。これは主に、リース債務が3億4,140万円、未払金が3億1,046万円増加したためである。

また、流動負債には未払金11億2,520万円が含まれているが、当該未払金は令和4年5月末日までに全額支払済となっていた。

（ウ）繰延収益は2億9,009万円で、前年度に比べ1,376万円（5.0%）増加していた。

イ 資本は57億7,295万円で、前年度に比べ7億6,635万円（15.3%）増加していた。

（ア）資本金は62億4,267万円で、前年度に比べ5,137万円（0.8%）増加していた。

（イ）剰余金は△4億6,972万円で、前年度に比べ7億1,497万円（60.4%）改善（負数が減少）していた。

（ウ）欠損金は6億4,785万円で、前年度に比べ7億1,396万円（52.4%）減少していた。なお、減少額7億1,396万円は、当年度純利益と同額である。

(3) 財務比率の主な指標は、次のとおりである。

(単位 %)

区 分	令和 3年度	令和 2年度	令和 元年度	算 式
流 動 比 率	180.6	164.0	146.5	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$
自己資本構成比率	42.7	45.5	43.3	$\frac{\text{資本} + \text{繰延収益}}{\text{負債} + \text{資本}} \times 100$
固定資産対長期資本比率	82.3	87.2	90.0	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$

ア 短期の支払能力を示す流動比率（200%以上が理想）は180.6%で、前年度を16.6ポイント上回っていた。

イ 負債及び資本に占める自己資本の比率を示す自己資本構成比率（率が大きいほど望ましい。）は42.7%で、前年度を2.8ポイント下回っていた。

ウ 財政の長期健全性を示す固定資産対長期資本比率（100%以下が望ましい。）は82.3%で、前年度を4.9ポイント下回っていた。

3 資金（現金・預金）の増減は、次のとおりである。

(単位 千円・比率 %)

区 分	令和3年度	令和2年度	比較増減	増減率
業務活動によるキャッシュ・フロー (A) ※ 「通常の業務活動の実施による資金の増減」	1,308,885	488,355	820,529	168.0
投資活動によるキャッシュ・フロー (B) 「将来に向けた運営基盤の確立のために 行われる投資活動による資金の増減」	△212,893	△234,406	21,513	△9.2
財務活動によるキャッシュ・フロー (C) 「資金の調達及び返済による資金の増減」	△559,551	△580,546	20,994	△3.6
本年度資金増減額 (AからCまでの合計) (D)	536,439	△326,597	863,037	△264.3
資金期首残高 (E)	562,997	889,594	△326,597	△36.7
資金期末残高 (DとEの合計) (F)	1,099,437	562,997	536,439	95.3

※ 業務活動によるキャッシュ・フロー (A) には、収支不足補填のための一般会計補助金 (令和3年度16億720万円、令和2年度21億5,303万円) が含まれている。

病院事業会計は資金が5億3,643万円増加し、期首に5億6,299万円であった残高が、期末には10億9,943万円となっていた。

- (1) 業務活動により増加した資金は13億888万円となっていた。
- (2) 投資活動により減少した資金は2億1,289万円となっていた。これは主に、有形固定資産の取得に2億7,746万円を支出したことによるものである。
- (3) 財務活動により減少した資金は5億5,955万円となっていた。これは主に、建設改良費等の財源に充てるための企業債2億1,040万円を借り入れ、一般会計からの出資5,137万円を受けたが、建設改良費等の財源に充てるための企業債5億7,385万円を償還し、リース債務1億4,025万円を返済したことによるものである。

## 第4 む す び

### 1 令和3年度決算総括

令和3年度の病院事業会計の経常収益から経常費用を差し引いた経常損益は、7億1,396万円の黒字（前年度は2,398万円の赤字）であったが、同会計では収支不足補填のための一般会計補助金16億720万円を収入しており、これを除いた実質損益は8億9,323万円の赤字となっていた。実質損益の推移を見ると、これまで7年連続で10億円を上回っていた赤字が減少しており、赤字の額は、前年度より13億1,247万円減少していた（図1）。

具体的な決算状況を見ると、収益面では、新型コロナウイルス感染症を懸念した受診控えが緩和されてきたことによる患者数の増加のほか、収益確保に貢献する施設基準（入院基本料の格上げや夜間看護体制加算）の取得が行われたことで、前年度に比べ、入院収益が6億8,498万円、外来収益が7,921万円、それぞれ増加していた。また、新型コロナウイルス感染症対策事業の実施に伴う県補助金も前年度対比で10億7,440万円増加しており、総額では11億5,314万円（9.5%）の増となっていた。

また、費用面では、職員数の増加などにより給与費が2億5,864万円、医療機器の保守点検業務の増加や電子カルテの更新により経費が1億5,124万円、前年度に比べてそれぞれ増加しており、総額では3億8,650万円（3.2%）の増となっていた。

このように、清水病院の経営成績は、前年度に比べ収益及び費用ともに増加しており、収益の増加額が費用の増加額を大幅に上回ることとなった。その結果、令和3年度末の累積欠損金残高は6億4,785万円となり、前年度対比で7億1,396万円（純利益と同額）減少していた（図2）。

図1

清水病院の实质損益の推移

(百万円)

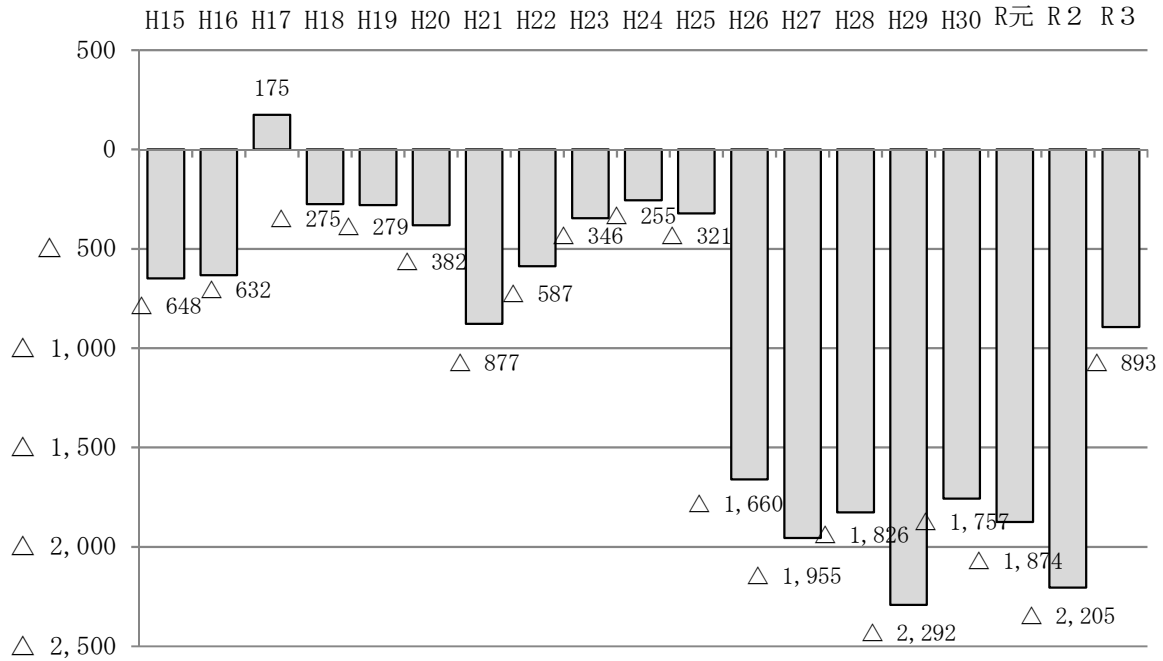
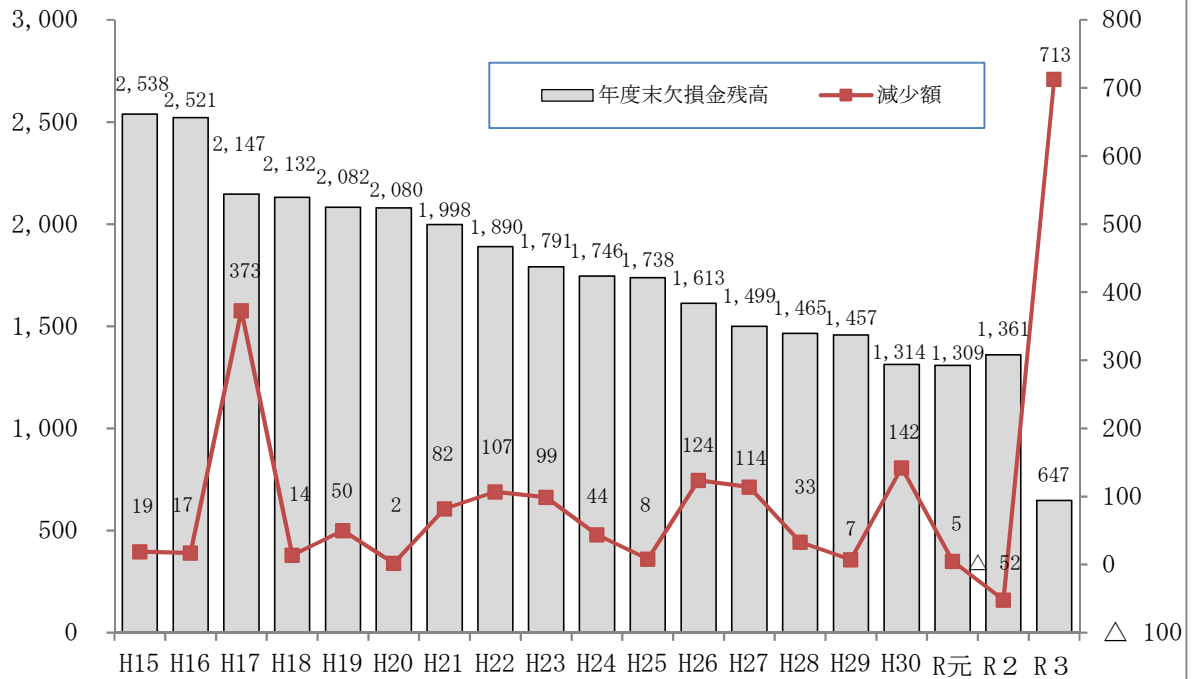


図2

清水病院の累積欠損金残高の推移

(百万円)

(百万円)





## 2 令和3年度の経営状況の評価及び将来展望について

前述のとおり、病院事業会計の実質赤字は前年度に比べ大幅に減少しているが、その主な要因は新型コロナウイルス感染症患者のための病床確保などに伴う補助金を臨時に収入したことによるものであり、このような特殊要因を除けば、病院事業の経営が厳しいものであることに変わりはない。

審査の過程では、経営改善のための具体的な目標を設定していることや達成状況の把握などの進捗管理に努めていること、これらの取組により一定の成果が得られたことが示され、そのこと自体は評価することができるが、特殊要因を除いた場合に20億円程度の実質赤字の生じる経営成績に鑑みれば、清水病院が目標とする地方独立行政法人への移行が非常に厳しいものであることは、客観的にも明らかである。

病院の将来像としては、清水病院ビジョン検討会議で「公共性と経済性が調和した持続可能な経営がなされている病院」という病院の在り方を掲げ、現在策定している次期経営計画（令和5年度から同8年度までを計画期間とする）には単年度赤字の解消と地方独立行政法人への移行が掲げられる見通しであるとのことであったが、現下の厳しい状況に照らせば、着実かつ実効性のある方策が求められるところである。収益の確保と費用の抑制の両面から現実的な施策に積極的に取り組み、実効性のある新たな経営計画の策定に期待するものである。

なお、病院施設に関しては、昨年度に実施した決算本審査で着手するとされていた長寿命化対策の進捗について確認をしたところ、令和3年度の取組状況は資産台帳の整理や一元化にとどまり、今後、病院の在り方を見極めつつ対応していくとの回答が得られた。病院施設は築30年余が経過しており、その維持・修繕や更新は経営計画とも密接に関連することから、経営計画の策定に合わせた長寿命化計画の着実な策定を望むものである。

## 3 旧医師住宅跡地について

現在、カルテ庫用地として活用されている駒越西の旧医師住宅跡地については、帳簿価額と比較して資産価値が低下しており、過去に売却を進めたことはあるものの不調に終わった経緯があるとのことであった。なお、本件土地に係る会計処理について、病院は、遊休資産でないことを理由に減損損失の認識はしていないとの見解を示した。

市場価格の著しい下落等により固定資産の帳簿価額が実際の収益性に比べ過大となっている場合には減損処理を行うことなどが地方公営企業法施行規則及び市病院事業会計規則においても定められ、本件土地の扱いについては過去の包括外部監査でもこの土地の状況に鑑み減損処理をしないまでも土地の有効活用が期待されるとの意見が付されたところでもあり、会計処理の適正の確保や資産の有効活用の観点からも、本件土地の在り方は適宜適切に検討が続けられるべきである。

当該土地の取扱いについて、市全体として売却を進めていくのか改めて検討を行う必要があり、近い将来の地方独立行政法人化を目指していくのであれば、財務諸表の信頼性を高めるためにも、減損損失の適否について早期に検討を進めるべきである。

#### 4 マイナ受付について

オンライン資格確認システムの運用に伴う「マイナ受付」については、患者側にとっては窓口での限度額以上の一時支払手続が不要となること、また、病院側にとっては診療報酬請求後の診療報酬明細書の返戻件数が減少するメリットがあるとのことであり、その周知の取組状況を審査の過程で確認したが、積極的にこれに取り組もうとする姿勢はみられなかった。本件事業の周知は患者の利便性向上と病院事務の効率化のためにも積極的に行われる必要があり、現状のように病院内での掲示や病院ホームページへの掲載による来院者向けの周知だけでなく、利用者である市民全体がメリットを知ることができるよう努めるべきである。

#### 5 医師確保について

課題であった循環器内科の医師については、令和3年度から清水区で開始した脳梗塞予防実証実験がきっかけとなり、令和3年度から2名、令和4年度からは更に1名の循環器内科医師が大学から派遣され、当分の間、清水病院に在籍するとのことであった。これは、地元の医師とも連携して取り組んだ成果であり、このような中長期的な事業を地元医師会や大学と連携して取り組んでいくことは、清水地域の医療が強化されると同時に清水病院の診療機能の強化につながるため、今後も、関係機関と連携した積極的な取組が続けられることを期待する。

参考資料

病院事業における最近5か年の経営指標等の推移

(単位 千円・比率 %)

年 度		令和3年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度	平成29年度
区 分	項 目					
経営成績	医業収益(営業収益)	9,348,792	8,582,767	9,616,193	9,913,005	9,378,646
	医業利益(営業利益)	△ 2,486,653	△ 2,844,662	△ 2,425,736	△ 2,303,009	△ 2,712,529
	経常利益	713,968	△ 23,985	5,408	142,742	7,799
	当年度損益	713,968	△ 52,670	5,408	142,742	7,799
	収支不足補填のための 一般会計補助金	1,607,200	2,153,038	1,880,000	1,900,000	2,300,000
	上記補助金を除いた 実質損益	△ 893,231	△ 2,205,708	△ 1,874,591	△ 1,757,257	△ 2,292,200
財政状態	資産合計	14,202,009	11,612,424	12,057,728	12,006,541	12,398,674
	負債合計	8,429,055	6,605,821	7,054,087	7,071,322	7,657,711
	資本合計	5,772,954	5,006,603	5,003,641	4,935,219	4,740,963
	自己資本	6,063,049	5,282,936	5,222,099	5,167,711	5,000,447
	流動比率	180.6	164.0	146.5	142.7	129.8
	自己資本構成比率	42.7	45.5	43.3	43.0	40.3
	固定資産対長期資本比率	82.3	87.2	90.0	90.9	93.1
	企業債未償還残高	3,089,137	3,452,588	3,946,825	3,840,559	4,295,679
	実質未収金	165,890	153,564	167,401	196,054	181,130
その他	病床利用率	66.4	61.4	76.5	77.9	75.4
	入院患者数(人)	112,272	103,724	129,595	131,703	130,365
	外来患者数(人)	171,062	164,432	181,274	178,490	176,824
	医師数(人)	69	66	70	69	65
	看護師数(人)	384	366	372	355	349